空き家団地再生Project始動!

地域復活の鍵は空き家にあり!

空き家は地域を具す!!

大分県の一品一村運動を
空き家団地にproduce!
『一団一品運動』

◆『空き家バンク』とは◆

大分県では空き家の対策として『空き家バンク制度』を運用しています。空き家をそのままにしておくと、地域の防犯上、治安上良くないこと、あるいは住宅という資産の不活用によるもったいないなどの問題があるため、市町村単位で運営主体となり、使用していない住宅を市町村などのホームページで紹介し、安く貸したり、売却することを目的とした制度制度です。このことで人が住んでいない住宅が使用したい人の手に渡り、『空き家』に『人』が移り住み、『空き家』が解決されていきます。しかし、これは単なる『物資の移動』ではないのか?

『人』と『空き家』との単なる物資移動にすぎない!

移動!

◆『空き家バンク』の現状と解決策◆

『空き家バンク』は『人』と『家』の移動であり、空いた家に人が入る、そして、人が住めば、また家は空く。

その連鎖であり、ただ、単に物資の移動でもあり、空き家に対する場当たり的な対応療法的なものにすぎず、継続性、発展性がないのが現状。また、空き家を集団市にするレストーンもあるが、その目的意識がはっきりとしていないため、利用者もかなく、根本的な『空き家』の利用には到っていないのが現状である。

悪い場合として解釈するが・・・・

集会所

集まる!

集まる!

結果は思うようにはなっていない!

◆『一村一品運動』から『一団一品運動』へ◆

1. 団地の特産物を創出する。特産物の利用場は空き家とする。
2. その特産物に賛同する、興味のある人は団地を訪れる。
3. 特産物を通して団地は新たなコミュニティが形成される。
4. その団地に賛同する人が『空き家』に入居する。『空き家』の解決。
5. 団地の活動に賛同する人が集まり団地を形成。そこには同じ趣味、考えなどを持つ人達が集まり、より良いコミュニティが生まれる。魅力の発信をしていくことで常に『空き家』には入居する人が訪れる。団地の発展は『空き家』の解決となる。

◆ 団地の特産物 ◆

一村一品運動とは異なり、農産物などの自然の恵みとは限らない。趣味などのパッチワーク、編み物、ブローチ、皮のバッグ、木工製品、ビザ焼きなど、同じ価値観を持つ人はこの団地の空き家に住みたくなるだろう。この一団一品運動では、団地は自立し、空き家は解決されていく!!

◆ 大分県に広がる『一団一品運動』◆

大分県に点在する空き家団地の多いエリア

広がるネットワーク!

大分県

活性化するネットワーク

活性化する拠点

空き家

活動拠点

発展

広がる

発展

空き家の解決

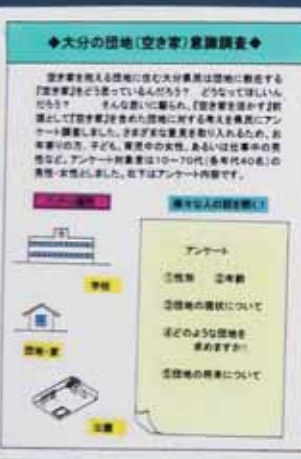
新たな団地

◆ 大分県の抱える問題について・・・・◆

私の住む大分県は大きな問題を抱えています。それは過疎化です。全国的な問題ですが、大分県はその過疎化が特に急速に進行しています。その原因は、これまでの経済の発展と農業の後継者不足の問題があります。大分県は産業都市になるため昭和40年代に企業を誘致しました。そのことやそこで働く人のためにたくさんの団地が造られました。しかし、その当々が活動されることや多くの住宅が空き家状態です。また、大分県は同盟であるための交通の便が悪いため外部性の高い新規迎に人が集中し、団地も造成されていますが、その団地の多くが中高齢者の問題を抱え空き家が増えています。また、大分は農業県でありましたが、外国からの安価な農産物、商品の輸入により農業従事者が減り、さらにはその後継者となる人が他の職種につき田舎を離れています。今、大分県は全国下で空き家が散在し、その数はあまりに無数で、『空き家』をどうしていくかが今後の課題。

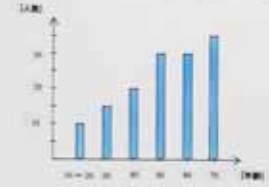
◆大分の団地(空き家)意識調査◆

空き家を抱える団地に住む大分県民は団地に散在する『空き家』をどう思っているんだろうか。どうなってほしいんだろう? そんな思いに駆られ、『空き家を活かす』計画として『空き家』をきめた団地に対する考えを県民にアンケート調査しました。さまざまな意見を取り入れるため、お年寄りの方、子ども、育児中の女性、あるいは仕事中の男性など、アンケート対象者は10~70代(各年代40名)の男性・女性としました。以下はアンケート内容です。



◆ 意識調査からわかる大分県民性 ◆

大分県民意識調査の結果から見えて来た重要な内容を表記します。大分県民は年齢を重ねるほど次世代に住んで楽しい地域を提供したいと思っているところです。以下に示すグラフでわかる通り、これはまさしく郷土愛そのものです。では、その郷土に愛を捧げ何にはどうしたいのだろうか?それほどのものほど・・・・。



グラフ1. 年齢別に見る『魅力ある団地を造りたい』人数

グラフ2. 団地の将来について

空き家を抱えた団地の住民のホンネを調査するとほとんどの人が、コミュニケーションが取れ、みんなが楽しくなる共同体のような団地を求めていることがわかった。これは『空き家バンク』では解決できない!

◆『一村一品』運動をヒントに!◆

大分県は1980年より各市町村が1つの特産品を果て地域の活性化を図る『一村一品運動』がブームとなった。これは地域住民が特産品を産み出し、自ら活躍し、地域を興していくもので住民に自主自立の精神と、交通環境による地域内でのコミュニケーションが芽生えた。もちろん過疎化にも歯止めをかけるほど地域に魅力を生み出す要素がある。この『一村一品運動』を空き家のある団地で実践してはどうだろう!

『一村一品の成果』

空き家
+
一村一品
⇩
空き家解決
+
活気ある団地へ
+
一団一品

『一村一品運動』に見る自立の精神

空き家を多く抱える団地も、自分たちの力で楽しい団地を創生することが大切!
なぜならば、『空き家』に『人』が出入りする『空き家バンク制度』ではその場しのぎにすぎず、空き家の継続的な有効活用や発展にはつながらないからである。その解決も何も変わらない。

『空き家』はどんどん増える!

一つの空き家に人が入居すれば解決するだろう?空き家はどんどん増えていく。その団地や地域に魅力がなければ誰も入居してこない。

『魅力ある団地』の形成を!

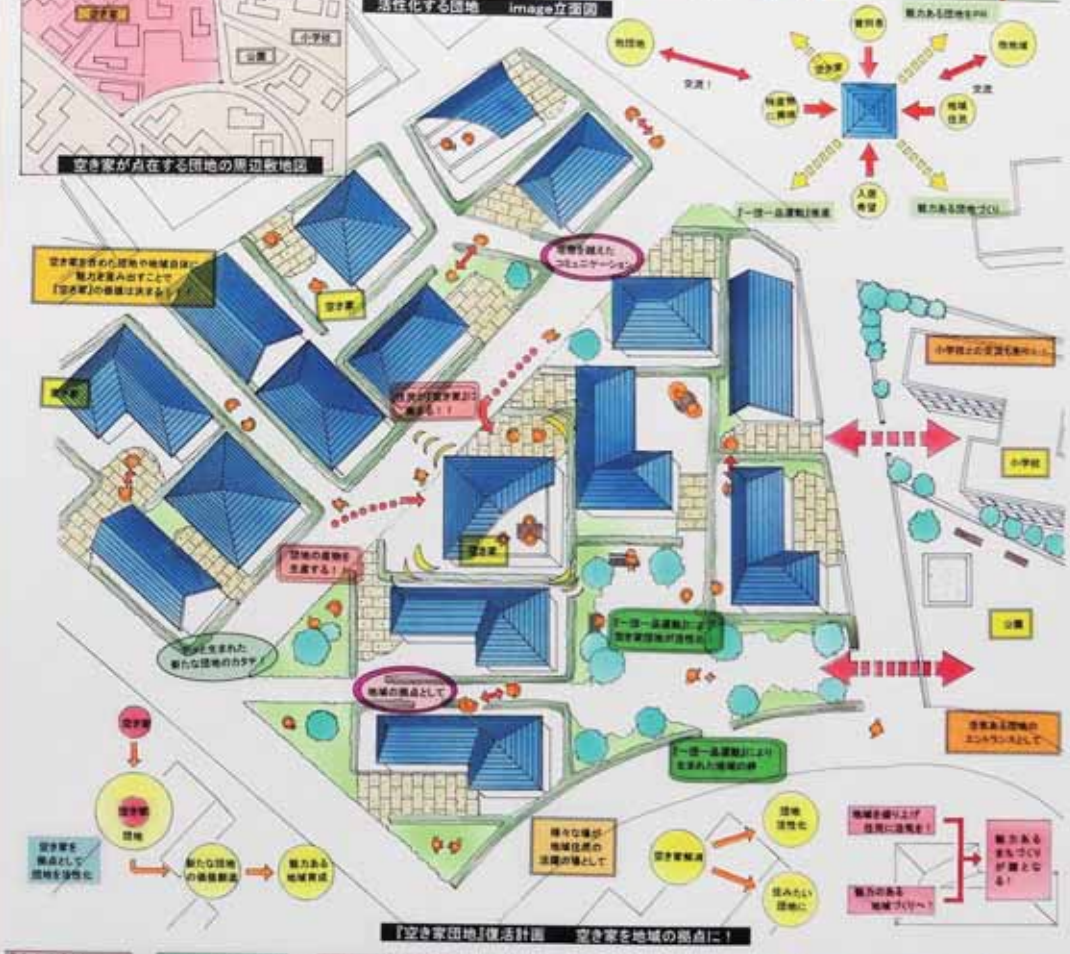
空き家というより、その解決、地域そのものに価値を創生し、そこに住みたいという人が継続的に集まることで空き家は常に解決できる!

●ローカルにしてグローバル●
大分県が展開してきた活動を、市町村から団地に変更し、その団地独自の魅力を創り出す。そして地域発展の鍵として空き家の解決を図る!

●自立運動・創意工夫●
団地を住まい手で運営し、団地独自の特産物・加工品を創り出すことで、団地に新たな魅力を引き出し、そこに人が集まり、空き家の解決となる!

●人づくり●
自らの活動は人をつくる。そしてその団地や地域を愛する人々がチャレンジ精神で新たな空き家の魅力を産み出す!

『一村一品運動』は『空き家』対策の鍵!



『空き家』を拠点に一団一品活動を展開する。(空き家は拠点) ➡ そして、団地の産物を検討していく。(例えば編み物、パン、料理教室、漬け物、陶芸…) ➡ その団地の産物に興味を持った人が訪れるようになる。 ➡ コミュニティが活性化し、その団地は活性化していく。 ➡ その産物に興味を持つ人が移り住み『空き家』が解消。 ➡ その場しのぎの『空き家対策』ではなく、継続発展性あり ➡ 『空き家』解消は継続され、同時に団地は活性化する!